

とらいあんぐる菅生

わたしと地域教育会議

菅生中学校前校長 松井隆夫



菅生中学校校長・松井隆夫先生が、平成26年3月31日をもって退任されました。菅生中学校では5年間という長きにわたって、生徒は勿論、地域にも気を配られて接して下さいました。退任にあたり、「わたしと地域教育会議」というテーマで寄稿していただきました。

菅生中学校の校長として、門をくぐってから、もう五年の月日が流れました。この「とらいあんぐる菅生」が発行される頃には、本校も新しい校長のもと、順調に船出されていることと思います。

わたしと菅生中学校区地域教育会議との出会いも5年前の春でした。

本地域教育会議は、その在り方をめぐって、平成12年度から何度も話し合いを行い、平成15年度本会議規約に、「地域と教育環境を力強く豊かにしていくためには、保護者、地域住民、教職員等の大人である私たち一人一人が、その実現方法を提示していく責任がある」という主旨の前文が付け加えられました。

この規約前文の定義によって、本会議が、ただ飾られた形式的な活動や、学校・教員に対する支援の場ではなく、学校と協働で子供たちを支援していく場であるという形が生まれたのだと思います。

この定義の具現化に向けて、様々な活動が積極的に行われました。中でもさまざまな年代が集まって歌や踊り、演奏を発表する菅生音楽祭は、川崎市の中でもあまり例がなく、特色ある地域活動にふさわしい、感動的な発表会となっています。(昨年度で10回目を迎えました)

そして、この菅生中学校区地域教育会議の中心的な取り組みとして、学習支援があります。市長が掲げている寺子屋事業にも、本会議の学習支援(中学校はプラス1学習会といいます)システムが、参

考の一つとして使われていると思われます。

しかし、今では軌道に乗っているこの取り組みも、数年前は、試行錯誤の連続でした。

スタートは、週一回程度英語・数学の2教科を放課後継続して補習するというところから始めましたが、部活動や委員会等が放課後にあるため、参加者が0人という日もありました。「誰も来なくてもいい。継続して教室を開いていることに意義がある」という考えと「生徒が来なければ意味がない」という意見がぶつかり合い、試行錯誤の末、「子どものニーズに答えよう」という基本的な考えでまとまりました。

現在は子どもの「テストの成績を上げたい」というニーズに応えるため、テスト前残留禁止期間中に集中して行っています。

学習支援や地域行事など、学校と地域教育会議との協働で、子どもたちのために全力で取り組んでいます。

<菅生中・卒業式のひとコマ>

26年3月13日。菅生中で卒業式が挙行了された。生徒一人ひとりに卒業証書が手渡され、司会者が「これで卒業式を終了します。」といった瞬間、一人の生徒が立ち上がり「ちょっと待ってください!」と大きな声で叫んだ。何事だろうと会場は一瞬凍りつき、騒然となった。「この中に卒業証書をまだもらっていない人がいます。松井校長先生です。」その理由に会場はホッとするのと同時に大きな拍手に包まれた。生徒から校長に卒業証書が読みあげられ、花束が手渡された。「なんと素敵な卒業式」と会場に居合わせた方はそう思われたことだろう。



地域教育学習委員会

第10回 菅生音楽祭



「地域で支え合い、生きる力を育てよう。勇気を持って一歩踏み出せ!」をテーマに、12月7日(土)、菅生中体育館で開催されました。今回で第10回を迎え来場者も400人を超え、大盛況となりました。地域団体のほか、菅生中、菅生小、稗原小、南菅生保育園、菅生保育園の子どもたちが参加しました。最後に、菅生中吹奏楽部の伴奏で、会場のみなさんで「ふるさと」を合唱しました。当日は、先生方や地域の方、中学生による会場設営など、ご協力いただき素晴らしい音楽祭になり、感謝しております。

各部会報告

生涯学習委員会

“プラス1” 生徒の楽しみは?

アンケート結果~1位~はわからないことがわかるようになること

平成20年11月から始まった学習支援活動“プラス1”は、現在、6年目に入っています。プラス1の基盤ができるまでのこの5年間は、学校、プラス1講師、生涯学習委員会での協働作業でした。平成25年度のプラス1に1回以上出席した生徒は、1年生では80%にのぼり、ほとんどの生徒に知られるようになったことがわかります。プラス1最終日に、出席した生徒からアンケートをとりました。プラス1での楽しみは、上位の4つは、1位はわからなかったことがわかるようになること、2位はテスト勉強の役に立つこと、3位はプラス1ドリルがあること、4位は自分のペースに合わせてできること、と答えています。

3/19には、学校とプラス1講師との意見交流会を行い、生徒のニーズは何か、また、いかに応えるかについて話し合われました。生徒にきちんと向き合いたいという気持ちは、先生とプラス1講師も同じで、より良い支援へと、今後も協働作業は続きます。

道親ネットワーク

2013/11/30

第1回 すがお手つなぎまつり開催!!



道で会う子はみんなの子ども

地域に住む人たちが交流することで、楽しく子育てできるようにと、そんな願いを込め、地域子育て支援センターすがお・菅生分館・蔵敷子ども文化センターにて開催しました。菅生地区にある6つの子育て支援関連機関で組織された「すがお手つなぎ連絡会」との共催で、参加者は約700名でした。世代を超えた大勢の方々が集まり、楽しく交流しました。道親ネットワークでは、ロゴマーク入りの缶バッジを作成してラリーを行い、私たちの活動をお知らせしました。第2回を楽しみにしていますね。



【編集後記】「とらいあんぐる」をもっと可愛がってもらいたいと、何回か編集を担当する「情報委員会」で論議をしました。「自分の学校以外には興味がない」「文字が多すぎるのではないか」「ホームページとの関連は?」と様々な検討が行われました。今号から2色刷りに変更し、題字も変更してみました。右にはホームページに飛ぶQRコードを掲載しました。まだまだ読みやすく、そして皆様のお役にたつように工夫が必要で、今後も検討してまいります。どうぞ御意見をお寄せください。



地域教育会議 HP ^GO

稗原小学校校歌作詞者

まどみちお氏を偲んで



宇宙に向かって
平和へ向かって

～プロフィール～

詩人 まど・みちお（本名：石田 道雄 くいしだ みちお）、1909年〈明治42年〉11月16日生。昭和21年より川崎市民家園近くに住む。詩作りは20代から始め、25歳のときに北原白秋に認められる。多くの詩を生涯作り続け、おおらかでユーモラスな作品は童謡としても親しまれている。作品「そうさん」「やぎさんゆうびん」「ふしぎなポケット」等多数。

稗原小学校校歌を作詞した詩人まどみちお氏が、平成26年2月28日に永眠された。題字「宇宙に向かって・・・」は校歌の一フレーズ。”小学生だわっはっは”というインパクトのある歌いだしから始まるこの校歌は、小学校に通っている児童をはじめ、卒業生や保護者の心に印象深い。

一般的に校歌といえは、学校の名前や、その土地柄などが歌詞に歌いこまれることが多いが、まどみちお氏が残してくれたこの校歌は、学校の名前も風土も出てこない。そのかわり、自尊心、挑戦心、思いやりを持つことなど、生きていく上で大切なことを、飾ることのない、ありのままの言葉で伝えてくれている。

まどみちお氏が、実際、どのような願いを込めてこの詩を作ったのか、今となっては聞くことはできないが、この校歌を歌い、聞き、感じることで、まどみちおさんの想いに近づくことが出来るかもしれない。

川崎市立稗原小学校 校歌

まどみちお 詩
寺島尚彦 曲

一、小学生だ わっはっは 友だちだらけだ すこいだら
あたらしいこと どんどん おぼえ
こまっている 子は どんどん たすけ
どんどん どんどん 前進だ
大人へむかって 明日へむかって
やっほー やっほー

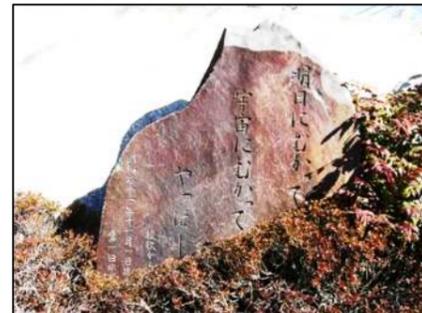
二、地球は いいな わっはっは 風まで緑だ がんばるぞ
わからないこと どんどん しらべ
まちがっていること どんどん なおし
どんどん どんどん 前進だ
宇宙へむかって 平和へむかって
やっほー やっほー

稗原小学校 植平公子校長のコメント

稗原小学校の校歌には、地域の山も川も入っていません。その代わりに、立派な大人になってほしいとの思いを、「どんどん どんどん前進」する先は、宇宙や平和なんだよと、語ってくださっています。未来に夢を持つよう励まして下さった、まどさんの心を大切に、稗原小学校の校歌を歌いつないでいきたいと思っています。

まど氏は、生前に何度も菅生に訪れている。講演会で、「そうさん」の話しが語られた。「動物の中であんなに鼻の長い動物はいない。他の動物から小象が囁し立てられる。そんな時、小象は『母さんも長いのだ』と誇らしげに言ったことを詩にしたものだ」と話された。

講演が終わった後、「そんな意味だとは知らずに、ただ可愛いとしか感じるしかできなかった。今日は、本当にありがとうございました。」と申し上げると、「詩は、作者の手元を離れた瞬間、読者の物になる。読者がどのように受け取るかは自由だ。」と物静かに語られた。まど氏の人柄にふれた瞬間だった。

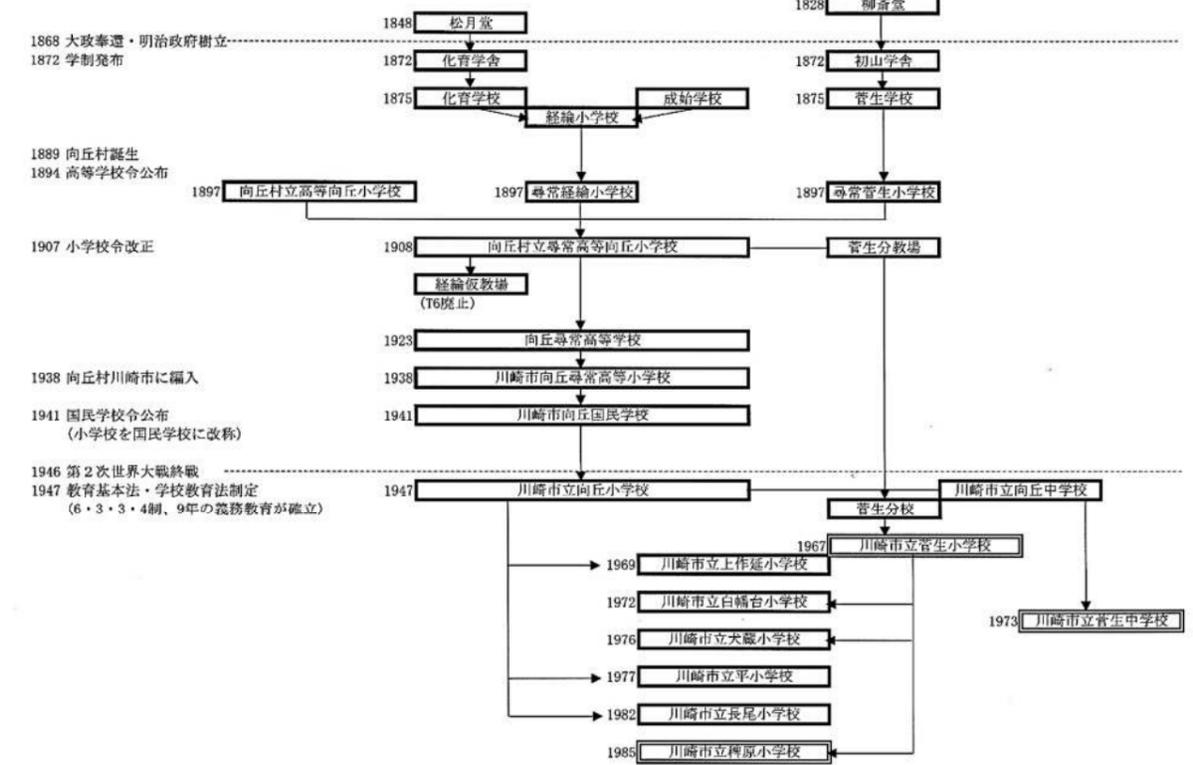


稗原小正門脇 校歌碑

菅生地区の学校ルーツ①

皆さんのお子さんが通っている菅生中学校・菅生小学校・稗原小学校はどのような流れで出来たのでしょうか？ ルーツを探ってみようと思います。

【菅生地域の学校系譜図】



◆江戸時代～明治時代初期

江戸時代の菅生地域は、想像もつきませんが、その時代に編纂された「新編武蔵風土記」という本が残っています。現在の菅生地域は、当時「下菅生村」と呼ばれていました。江戸日本橋から約6里(24km)で村内のすべてが山野の地で高低はなはだしく、防衛省研究所付近から稗原の方面には人家は全く無く、樹木が生い茂り「大野原」と呼ばれていたとあります。ですから、ほとんど人家はなく住んでいる人もほとんどいなかったと想像できます。

そんな菅生に学校らしいものが出来たのは、今の初山「本遠寺」に1828年「柳斎堂」が、平の「東泉寺」に1848年「松月堂」が、まさに寺子屋として誕生したとの記録があります。



江戸時代：寺子屋風景

明治時代に入り、明治5年「学制」が公布され、学校制度が出来上がると、本遠寺「柳斎堂」は「初山学舎」と名前を変え、東泉寺「松月堂」は「化育学舎」と名前を変えました。

その後、1875年(M8)には「初山学舎」は、「菅生学校」となり、「化育学舎」は「化育学校」とし、同年長尾村にあった私学「成始学校」を統合して「経綸小学校」となります。

◆向丘村誕生

1889年(M22)に上作村・長尾村・平村・菅生村を合併して「向丘村」が誕生します。当時の小学校は、初等科3年、中等科3年、高等科2年でしたが、1892年(M25)に尋常小学校4年、高等小学校2～4年に変化します。

向丘村では、遅れること5年。1897年(M30)に「向丘村立高等小学校」が整備され、「尋常経綸小学校」「尋常菅生小学校」と教育体制を作り上げています。高等小学校の校舎が出来上がるまで、東泉寺を間借りしており、新校舎は現向丘小学校に明治31年4月15日に完成したとあります。その時は花火をあげ、大運動会が開催されたとあり、向丘小学校の創立記念日になりました。



経綸小学校風景

その後、1907年(M40)に小学校令の改正が行われ、尋常小学校が6年、高等小学校が2～3年と変更になります。それに従って、「向丘村立高等向丘小学校」「尋常経綸小学校」「尋常菅生小学校」が統合され、「向丘村立尋常高等小学校」が誕生します。「尋常経綸小学校」は仮教場となり大正6年に廃止、菅生分教場(現地域子育て支援センターすがお)はそのまま残り、1967年菅生小学校誕生まで存続することになります。